

商青連だより

S.61.2.25

発行 全国商工会議所青年部連合会 電話(03)281-7848 編集 全国商工会議所青年部連合会広報委員会

61年度スローガン
『商工会議所
若さでつくる新時代』

- ◆青年部設置率 252ヶ所
- ◆青年部組織率 52.4%
- ◆商青連加入青年部 162ヶ所

青年部設置率目標五〇%を達成

即年度商青連代表幹事・安部谷次郎



全国の青年部の皆様、一年間色々とお世話になりました。六十一年は二回の全国大会にもかわりませぬ。特に福井での大会は屋外登録者数が過去最高を記録されました。これは、青年部の皆様のおかげです。また、お礼申し上げます。また、私達青年部は地域づくりや公共の福祉の代表である。また、私達青年部は地域づくりや公共の福祉の代表である。また、私達青年部は地域づくりや公共の福祉の代表である。



全国商工会議所青年部連合会「商青連」が、昭和五十八年四月に発足して以来、青年部相互の交流の輪が広がりました。また、各地商工会議所において青年部の設置が進んでまいりましたことを大変嬉しく思っています。また、私達青年部は地域づくりや公共の福祉の代表である。

発刊によせて

全国商工会議所青年部連合会「商青連」が、昭和五十八年四月に発足して以来、青年部相互の交流の輪が広がりました。また、各地商工会議所において青年部の設置が進んでまいりましたことを大変嬉しく思っています。また、私達青年部は地域づくりや公共の福祉の代表である。

近代的日本は、ほぼ四十年に大きな変化を遂げました。先ず明治維新それから日露戦争そして太平洋戦争である。今戦後四十年を越えて貿易摩擦という難問を抱えている。さらには最近の急激な円高情勢等、企業を取りまく環境はなお厳しさが予想される。

近代的日本は、ほぼ四十年に大きな変化を遂げました。先ず明治維新それから日露戦争そして太平洋戦争である。今戦後四十年を越えて貿易摩擦という難問を抱えている。さらには最近の急激な円高情勢等、企業を取りまく環境はなお厳しさが予想される。

来年度のスローガン決まる
『商工会議所
若さでつくる新時代』
61年度商青連代表幹事・中山昌男

61年度商青連代表幹事・中山昌男



ローガンである。ここには青年部として自らの資質の向上を目指すとともに、会員相互の交流を通じて、企業の発展と、豊かな地域社会づくりへ貢献して行こうとする。抱負と決意が込められているのである。商工会議所の持つ公共性、地域性、総合性、国際性といった優れた特徴を生かしながら本年も奮闘していきたいと思っている。以下、事業計画について述べてみたい。

- ### 主な内容
- 2頁 第5回全国大会
東北・北海道ブロック大会を終えて
関東ブロック連合大会を開催して
 - 3頁 東海・近畿ブロック運営研究会を主催して
第5回九州ブロック研究会
 - 3頁 61年度ブロック運営研究会だより
 - 4頁 地域経済の土改 活動する青年部活動事例
 - 5頁 姉妹青年部提携
 - 6頁 新年度商青連役員の横断

東海・近畿プロテック

春日井商議所青年部々長 水野直樹

プロテック別業研究会の考... 春日井市は人口三十万人の都市ですが...

中国プロテック

松江城で象徴される松江商議所青年部

夕陽がひびきまわしい古道... 松江商議所青年部は本年五月に竣工した...

四国プロテック「心はいつも太平洋ぜよ」

高知商議所青年部理事 宮地彌典



宮地彌典

坂本龍馬生誕百五十年が過ぎ... 四国の中小商工業者の現状...

九州プロテック

商工業にインパクト 鹿島商議所青年部

佐賀県の西海部、多良野の東北山麓に、中川、藤島川、石水津川などの河川が造成した...

の分、定年二十五才の若い青年部員が募集... 春日井市は人口三十万人の都市ですが...

青年経営者として、考え、取り組まなければならぬこと... 中国プロテックでは、地蔵における青年部の発達の諸問題...

真くない環境を望しみなげくのではなく、青年の力で時代に対応した商工業をつくりあげていこうとする、鹿島に似た行動が切に求められています...

美しい状況にあります。このような時期に選定研究会を立ち上げ、主幹すること、鹿島の商工業にも大きなインパクトを与えるものと思えます。

地域経済の主役 活動する青年部 各地にみる活動事例



史跡と文化財の眠る 松代を発展させるために

史跡と文化財の眠る 松代を発展させるために... 代田 松青年

「ギネスブックに挑戦」 世界1の松明づくり 豊後高田商議所青年部会

町づくりは、常に未来に向けて... 世界1の松明づくり... 豊後高田商議所青年部会



世界1の松明に挑戦。高さ2メートル、長さ10メートルの松明。

- マツダ自動車工業株式会社... マツダ自動車工業株式会社... マツダ自動車工業株式会社...

新年度商青連役員の内顔

全国商工会連青連青年部連合会は昨年十一月九日、櫻井市で第三回委員会を開き、六十一年度の役員を選任した。

連合会は五十八年四月に一全国の商工会連青連青年部の交流と提携をはかり、もってその健全な発展を期し、商工会議所の組織の強化に青年部を目的に設立され、現在、一六一商工会連青連青年部が加入している全国組織です。

六十一年度の青連役員にこのほど選任されました。会務各様の格別のご指導、ご支援をお願いいたします。

〔代表幹事〕

中山昌男



- ①関東ブロック
②土浦青年部
③西中堂副社長
④建築資材卸売

〔副代表幹事〕

奥田利明



- ①北海道ブロック
②釧路青年部
③奥田商事株式会社取締役
④食料品、酒類卸売

森原幸昭



- ①東北ブロック
②盛岡青年部
③高塚建設材料社長
④建築資材

渋谷征雄



- ①北信越ブロック
②富山青年部
③岩谷建設工業専務取締役
④一般土木・道路舗装

中島宣史



- ①関東ブロック
②鎌倉青年部
③前からこや商店専務取締役
④玩具小売

河上赤穂



- ①東海ブロック
②岡崎青年部
③河上食品商事代表取締役
④医薬品販売

古川伸二



- ①近畿ブロック
②福井青年部
③福井県田代商會代表取締役
④合繊繊維販売

池田功二



- ①中国ブロック
②松江青年部
③松江自動車用品会社長
④自動車部品販売

宮地雅典



- ①四国ブロック
②高知青年部
③宮地電機代表取締役社長
④電気機械資材販売

黒田勝昭



- ①九州ブロック
②大村青年部
③練馬田舎工業代表取締役
④建築検査工事

〔幹事〕

横尾逸郎



- ①北海道ブロック
②愛知青年部
③花菱本花店店主
④生花小売

菅原周二



- ①東北ブロック
②盛岡青年部
③白丸食品専務取締役
④製菓業

千葉幸七



- ①東北ブロック
②一関青年部
③一関Sデパート千葉久 店長
④百貨店

下平憲一



- ①北信越ブロック
②松尾青年部
③有田建設専務取締役
④下水道工事

野澤具一



- ①北信越ブロック
②高野青年部
③のざわ用具
④器具等製造販売

神田健一



- ①関東ブロック
①土尾青年部
③森上尾グリーンガーデン 代表取締役
③観葉植物

木内修二



- ①関東ブロック
②石川青年部
③朝のうら 代表取締役
④婦人服小売

竹林武一



- ①東海ブロック
②津 青年部
③三菱トヨタ自動車専務取締役社長
④自動車販売修理

村田清司



- ①近畿ブロック
②北大阪青年部
③藤村田新築代表取締役
④新聞販売

今井隆雄



- ①中国ブロック
②鳥取青年部
③大山製粉専務取締役
④製粉業

馬宮功



- ①四国ブロック
②阿波池田青年部
③三芳菊造機専務取締役
④醸造業

花城清友



- ①九州ブロック
②沖崎青年部
③沖崎配器センター代表取締役
④食料販売

池増徹



- ①九州ブロック
②鹿児島青年部
③九重建設代表取締役社長
④建設、不動産

日野茂



- ①関東ブロック
②栃木青年部
③三ツ幸電機製作所専務部長
④自動車電装品製造販売

大橋隆



- ①九州ブロック
②日本青年部
③大橋工業代表取締役
④建設、不動産

〔相談役〕

中田高連



- ①北信越ブロック
②富山青年部
③中田木工製作所代表取締役
④家具製造販売

竹中勝治



- ①北信越ブロック
②新潟青年部
③竹中製作所専務取締役
④製糖製造販売

曾我隆一



- ①関東ブロック
②前橋青年部
③曾我製作所代表取締役
④小売零售

澤谷邦夫



- ①関東ブロック
②水戸青年部
③日工商事代表取締役
④陶器、土木建設

清水慶道



- ①近畿ブロック
②福井青年部
③福井 入野 取締役専務
④印刷業

菅原一郎



- ①九州ブロック
②竹田青年部
③菅原建設代表取締役
④ホテル、旅館



- ①九州ブロック
②豊後高田青年部
③安部建設代表取締役
④石油製小売

月刊「石垣」に「寄稿を」

日蓮の正統派「石垣」に青年部関係記事を書きください。テーマは自由、字数は千二百字以内。詳しくは商青連事務局(西〇三〇〇一七八四八)にお尋ねください。

編集後記

広報委員長・水野(春日)君

正統派委員会の活動の目的のひとつでありました。このたびは、発行の運びとなりました。また、今回は創刊号の一段落のものとして六十一年度の活動報告の内容となっております。それと、会報名も「石垣」ではなく「商青連だより」とさせていただきます。これが、次回に正式な「石垣」を創刊して発行される予定です。今後本誌が青年部活動情報だけに留まらず全国のあらゆる経済情報、特産品、観光、宿泊施設等あらゆる内容の情報誌として完成され、一年に二度ぐらい発行されるようになることを期待いたします。